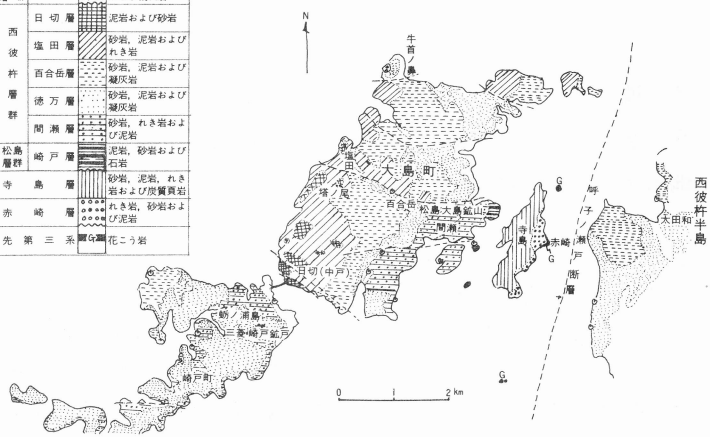


## 36. 崎戸・大島の第三紀層

地 域	西彼杵郡大島町
交 通	西海沿岸商船 佐世保—大島
地形図	舩ノ浦 (1/50,000)

大島・崎戸地域に分布する第三紀層の基盤岩は、寺島の東海岸の赤崎に一部露出する花こう岩類であるが、ほとんど呼子ノ瀬戸の海底下に没している。これを赤崎層群が不整合におおっており、この関係は赤崎付近で見られる。赤崎層群は、乾燥気候を示す紫赤色けつ岩を含んでいるのが特徴で、寺島の東岸にそって分布しており、花こう岩、チャートのれきを主にしたれき岩、砂岩および泥岩の互層よりなる。これらの堆積物は、新生代古第三紀始新世のものと考えられている。この赤崎層群に漸移して寺島層群が整合に重なっている。紫赤色の色調を失う付近から寺島層群とされている。寺島層群は、寺島、苺島（蓬来島）、野島などにわずかに分布し、岩相は赤崎層とあまり変わらないが、地層が非常に乱れており、走向、傾斜角の測定がしにくい。さらにこの層群を松島層群が傾斜不整合におおっている。松島層群は、大島の東岸や、大島と寺島間に分布しており、下位から苺島層、崎戸層の2層にわけられている。苺島層は、れき岩、砂岩、泥岩の互層からなる海成層である。崎戸層は石炭層をはさむ汽水成、ないしは淡水成の地層で、大島鉱業所附近に見られ、崎戸および松島両炭田の重要な夾炭層である。本層群の全容は地表では見ることができないが、ボーリングのコアなどから知ることができる。松島層群は不整合に西彼杵層群におおわれている。西彼杵層群は、大島・崎戸や西彼杵半島に広く分布し、600mあまりの厚層である。赤崎層群、寺島層群は、花こう岩のれきを多く含み、

火山砕せつ物	▲▲▲▲▲	凝灰岩、凝灰角れき岩および流音
世保層群	相瀨層	砂岩、泥岩、石炭および凝灰岩
西彼杵層群	日切層	泥岩および砂岩
	塩田層	砂岩、泥岩およびれき岩
	百合岳層	砂岩、泥岩および凝灰岩
	徳万層	砂岩、泥岩および凝灰岩
	間瀬層	砂岩、れき岩および泥岩
松島層群	崎戸層	凝灰岩、砂岩および石炭
	寺島層	砂岩、泥岩、れき岩および炭質頁岩
赤崎層	れき岩、砂岩および泥岩	
先第三系	花こう岩	



大島・崎戸の地質図 (地質調査所, 長浜春夫, 松井和典, 1958)

結晶片岩のれきを含まないのに対し、松島層群、西彼杵層群は逆に持っているのが大きな特徴である。

長浜春夫、松井和典によると西彼杵層群は下位から、間瀬層、徳万層、百合岳層、塩田層、中戸層（日切層）の5つにわけられている。この5つの層の特徴を簡単に列挙してみる。

間瀬層：大島町大小島の東海岸から間瀬を通り徳万に行く道路ぞいの崖に見ることができる。下部は、暗灰色の砂岩や、雲母片を含んだ砂岩からなり、砂質泥岩の中に *Turritella* などの化石が多く産出する。上部は、おもに砂岩からなり、貝化石、砂管を産する。

徳万層：大島町の徳万、内浦などでよく見られる。流紋岩質凝灰岩をはさんだ砂質泥岩と砂岩との互層である。これは、この時期から火成活動が行なわれたことを示しており、西彼杵層群下部の雲母片を含む特徴が失われてくる事とあわせて、かなり堆積環境が変化した事が考えられる。

百合岳層：大島町百合岳中腹から山頂を通り塔ノ尾に至る間に見られる。下部は砂岩と緑色を帯びた灰色の泥岩との互層で有孔虫化石を多産する。

塩田層：大島町の西海岸，特に塩田でよく見られる。最下部は約1 mのれき岩であるが主に砂岩からできている。下部には浅海成の貝化石層がある。

日切層（中戸層）：大島町日切（中戸）でよく見られ，砂岩と泥岩の互層で，貝化石，有孔虫化石を産する。

以上の西彼杵層群を佐世保層群が不整合におおっているが，佐世保層群の一部が大島の北端の牛首の鼻に露出し，その上を不整合に第四紀の玄武岩質の凝灰岩ないし凝灰角れき岩がおおって分布している。

（小田忠昭）

### 新生代初期の気候

今から約 5,000～6,000 万年前の新生代の初期には，北西九州一帯は現在より沈降して砂泥を堆積する海域であった。その海に住んでいた有殻頭足類のオウムガイの仲間の化石が，伊王島町沖ノ島から産出する。現在までに 100 個ほど採集されており，成体から幼体までみられるので，この海域に住んでいたのは確かである。現在のオウムガイは亜熱帯から熱帯のフィリッピン近海にわたって住んでいることが知られている。また，高島炭田からはマングローブの茂る汽水域にすむオオシジミやビカリアの仲間の化石が発見されている。また，この時代の地層の中で最下位にある香焼層（赤崎層）は，現在のサバナ型気候区の赤色土とよく似ている紫色けつ岩を含んでいる。

このようなことから新生代の初期の気候は，現在よりかなり温暖であったことが推測される。